

げんき通信

子宮内膜症のおはなし

子宮内膜症とは、本来は子宮内部にしか存在しないはずの子宮内膜組織が、別の場所(卵巣・卵管・直腸・膀胱・腹壁など)で増殖する疾患です。子宮内膜は子宮のいちばん内側をおおっている粘膜組織で、女性ホルモンの働きで周期的に厚くなります。これは妊娠に備えての準備なので、受精卵が来なければこの厚くなった子宮内膜ははがれ落ちて月経となります。この際、月経血は本来ならば体外へ出ていきますが子宮の出口が狭いために月経血の一部が抵抗の少ない卵管を通って腹腔内へ逆流することがあります。この逆流した月経血の中にはまだ生き残った内膜細胞があり、これが腹腔内のいろいろな場所にくっついて増殖し、本来の子宮内膜の周期にあわせ出血を起こします。つまり、月経が子宮以外の場所で起こることになるのです。子宮内と違って、お腹の中の血液は逃げ場がないのでたまってしまう。そして、この血液が古くなると下口下口になって、骨盤内の臓器とおしを癒着させるといふ悪影響を及ぼします。

この病気がある間は誰でもかかる可能性があり、特に30代前半にいちばん多く見られます。そして近年、発症の年齢が次第に低下していて、発症する人数は増え続けています。原因としては、医療の発達により見つけやすくなったこと、出産の回数が増ったこと、初潮年齢がどんどん低くなってきていることなどが考えられます。また、環境ホルモンの影響の可能性も示唆されています。

薬物療法と手術療法

主な症状としては、疼痛と不妊があります。疼痛は月経時の強い痛み(次第に増強しているもの)、月経時以外の下腹部痛・腰痛・性交時痛・排便痛・慢性骨盤痛などさまざまです。疼痛は月経時の強い痛み(次第に増強しているもの)、月経時以外の下腹部痛・腰痛・性交時痛・排便痛・慢性骨盤痛などさまざまです。疼痛は月経時の強い痛み(次第に増強しているもの)、月経時以外の下腹部痛・腰痛・性交時痛・排便痛・慢性骨盤痛などさまざまです。



その時々にあった方法で治療をする必要があります。



《木原店薬剤師/よこた》

C O L U M N

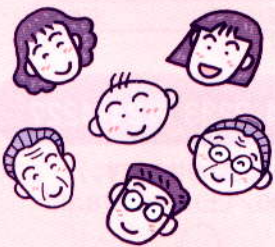
げんきコラム

紫外線に気をつけよう!



5月になりました。緑の中で本格的なレジャーシーズンの訪れですが、ひとつ問題なのが紫外線。実はこの時期から地上に届く紫外線量が急が増えるのです。特に近年はその量が増えていて、皮膚への悪影響が心配されています。曇りの日でも要注意。年齢や性別に関係なく、無防備に日に当たることは避けましょう。肌の弱い人や赤ちゃんにも使える日焼け止めもあります。

処方せんはぜんぶ「くぼ薬局」におまかせください



すべての病院・医院の処方せんを受けつけ責任を持って調剤いたします。

ご家族みなさんのかかりつけ薬局としてご利用ください

あなたのまちのくすり箱

くぼ薬局

● 県庁通り店 ☎23-4550 ● 中町店 ☎26-2817 ● 中の小路店 ☎24-2882 ● 木原店 ☎24-2233

● 西与賀店 ☎22-2311 ● 医大通り店 ☎32-1133 ● 北茂安店 ☎0942-89-1777